

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	佐賀関町立木佐上小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	5	8
児童数	8	5	8	11	9	9	0	50	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力を育む学習活動の創造 ~少人数学級を生かし、一人ひとりを大切にしたい算数科の指導方法と評価の工夫・改善~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～6年生・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科である。また、積み重ねていく学習であるので、その学年の基礎・基本は特に定着させなければならない。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

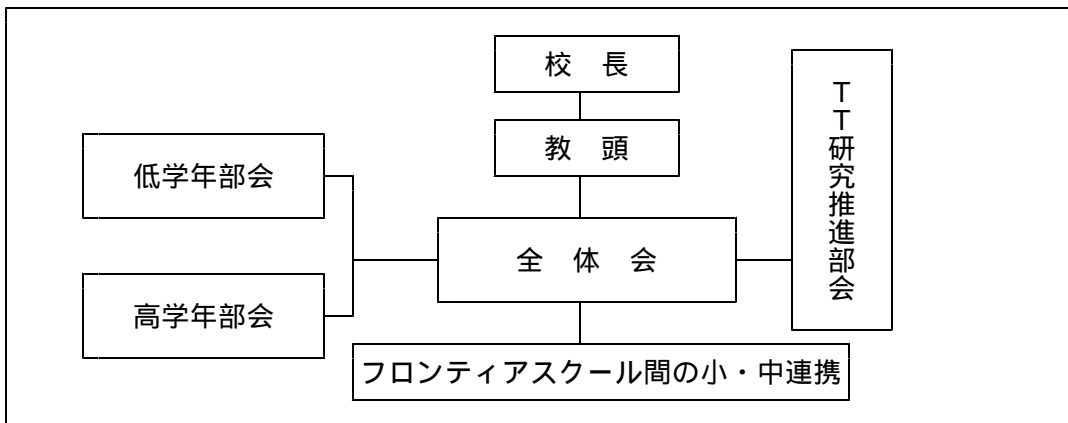
平成14年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力と豊かな心を持った子どもの育成 ~生きる力としての基礎・基本の定着を図る指導と評価の工夫~</p> <p>研究の見通し(仮説) 少人数学級を生かし、一人ひとりを大切にしたい指導法を工夫すれば、自ら学び豊かな心を持った子どもを育てることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 自ら学ぶ力を育てる基礎・基本とは 各学年における算数の基礎的・基本的事項の系統性の研究 多様な考えが出し合え、深め合える算数の授業研究 楽しみながら取り組んでいけるチャレンジタイムの創造 2, 少人数の中でのきめ細やかな指導 算数の授業の中でのよりよいTT指導のあり方の研究 レディネスの様子や授業の理解度・つまづきなどを把握し、授業に生かしていける評価・個人データ作成 3, 人の良さが分かり、一人ひとりが大切にされる仲間作り 自分の思いや考えが出せ、みんなで話し合っていける集団作り 励まし合い・認め合い・助け合いの心を持ち、持てる力が発揮できるような支援の工夫 家庭・地域社会との連携と体験的活動の充実
--------	---

平成	<p>テーマ 確かな学力を育む学習活動の創造 ~少人数学級を生かし、一人ひとりを大切にしたい算数科の指導方法と評価の工夫・改善~</p> <p>研究の見通し(仮説) 児童の実態を的確にとらえ指導に生かすための評価のあり方を工夫し、学習のねらいや個の実態に応じたTT指導を取り入れ、意欲的に学べる学習課程を仕組んでいけば、子どもたちはよりいきいきと学習し、確かな学</p>
----	--

15 年 度	<p>力を育てることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 一人ひとりの指導に生かせる評価のあり方を見直し改善する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元に入る前の既習の力の把握と子どもとらえの充実 ・ 授業での子どもの様子を把握するための手だての充実 ・ 授業後の児童分析と支援の方法の検証 ・ 成績データ作成と分析 2, 個に応じた支援の工夫・改善を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のねらいや個に応じたTT指導の改善 ・ 個に応じた補充・発展的な学習の工夫 3, 基礎・基本が身につく楽しい算数の授業について研究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味や関心を持ち、意欲的に学べる教材の開発 ・ 多様な考えを出し合い、深め合える学習過程の研究 ・ 定着を図り、応用力を高めていける学習内容の研究 <p>* 昨年度のテーマ“豊かな心”育てを研究の基盤におき、確かな学力の育成を中心に研究することに変更した。</p>
--------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力を育む学習活動の創造</p> <p>～少人数学級を生かし、一人ひとりを大切に算数科の指導方法と評価の工夫・改善～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>児童の実態を的確にとらえ指導に生かす評価の仕方や意欲的に楽しく学べる学習過程を工夫し、学習のねらいや個の実態に応じたTT指導を取り入れていけば、子どもたちはよりいきいきと学習し、確かな学力を育てることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 一人ひとりの指導に生かせる評価のあり方を見直し改善する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元に入る前の既習の力の把握と子どもとらえの充実 ・ 授業での子どもの様子を把握するための手だての充実 ・ 授業後の児童分析と支援の方法の検証 ・ 成績データ作成と分析 2, 個に応じた支援の工夫・改善を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のねらいや個に応じたTT指導の改善 ・ 個に応じた補充・発展的な学習の工夫 3, 基礎・基本が身につく楽しい算数の授業について研究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味や関心を持ち、意欲的に学べる教材の開発 ・ 多様な考えを出し合い、深め合える学習過程の研究 ・ 定着を図り、応用力を高めていける学習内容の研究
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果と課題
 (1) きめ細やかな指導をするために今年度行った学習指導体制

《各学年の教科指導担当》

教科	1年	2年	3年	3年S児	4・5・6年
国語	担任	加配	担任	緊急雇用職員	担任
算数	担任・T2(教頭)	加配	担任・T2(教頭)	緊急雇用職員	担任・T2(加配)
音楽	担任	加配	担任		担任
生活科	合同 1年担任・T2(緊雇職)				
体育	合同 1年担任・T2(緊雇職)		合同 3年・4年担任		合同 5・6年担任
その他	担任	複式	担任		担任

《算数科でのTT指導》

学習過程	主なTTの指導形態	
出会う	T1 全体指導 課題提示・自力解決や操作活動の説明	T2 個別指導 題意がわからない子への説明
考える	T1・T2 個別支援 自力解決の場面で、それぞれのやり方の方法別に支援 (T2 考え方の様子を記・評価)	
深める	T1 全体指導 全体の中での個々の位置付け・深める問いの提示	T2 個別指導 発表の支援・考えが出ない場合に意見や考え合う視点を示唆
広げる	T1 チャレンジコース どんどん問題を解いていく子どもたちの支援	T2 じっくりコース 習熟度合に応じて問題を解いていく子どもの支援

成果と課題

TT指導では、子どもたちが自分の考えをしっかりと持とう・あきらめず考えようとする意欲が向上し集中力が増してきた。また学力の低い子や考えを持っていても不安だった子が安心して学習できていることがアンケート結果からも明らかになった。

二人体制だと子どもの姿がよく見えてくるので、子どもの考え方の様子・つまずき・個々のねらいと評価などの話を深められ、次はどのような指導が効果的か考え合えるようになり、日々の教材研究も深められている。

複式学級の学年別授業では、各学年の基礎的な学習をていねいに時間をかけ指導することができる。また他学年との合同学習では、下級生に教えたりお互いのよい面を学んだりでき学習が深められる。

S児のていねいな個別学習と保護者との連携により、今年度ぐんぐん力がのびている。少人数学習での話し合いを深めたり広げたりするために、T1 T2はどのような支援や役割がより効果的か、これからも研究を深めたい。また、どんな教材がよいか、補充問題の与え方はどうあればよいかなどの打ち合わせの時間も充実させたい。

- (2) 評価の方法と生かし方

レディネステスト

単元に入る前に子どもたちの既習の力を把握し、本時の授業に生かすためのポイントは何か考える。

座席カルテ

主にT2が授業中の子どもの考え方や変容の様子を記入し、事後の話し合いに役立てる。

ワークシート

個々の自力解決の様子を把握する。自力解決の仕方や考えた内容がよくわかるように、式や絵や文章などでやり方を記入させ、出し合いの場面に利用させる。

単元評価一覧表

単元を通して毎時間の子ども様子・TTでの支援内容などを記入する。

評価分析表

研究授業で、子どもの考えの広がりや深まりを予想し分析する。一人ひとりの考えがどの段階か、どこまでステップアップさせたいかを分析表を基に考えていく。

抽出児中心に見た授業分析

抽出児1名を細かな記録を基に分析し、T1の授業の流し方とT2の関わりが適切であったかを検証する。

観点別成績データ作成と分析

観点別に各学期ごとの成績をデータ化し、1年間の子どもの伸びの様子と指導にあたって配慮すべきことについて分析し記録に残す。

成果と課題

一人だけでなく複数の教師で子どもの様子を細かくとらえ分析をしていくことで、より確かな子どもの実態が把握できる。また、少しの時間でも機会を見つけて話し合う

場が昨年よりも増えてきた。

どのような子どもの評価が次の指導に生かせるか、これからも検討を加えて利用しやすいものにしていきたい。また個々のデータの集積の仕方についても、今後検討をしていきたい。

(3) 意欲的に学んでいける楽しい算数の授業の取り組み

学級の子どもたちが興味を持って取り組んでいける出会いの場の工夫

児童の生活経験や学年の実態をきちんと把握し、その単元の導入にはどのような教材や導入の仕方が意欲的に学んでいけるものかを研究する。

どの子も考えを持ち、多様な考えを引き出していける課題の設定

どの段階の子どもたちにも受け入れられる課題であり、人数が少なくてもたくさんの考えが出し合えるためにはどのような課題を与えたらよいか考える。

自力解決する場で具体物を使って体験的に操作活動を進めていける教材・教具の選択

それぞれが解決の見通しを持ち、自分のやり方ではどんな教具でどのような手順で解決していくかを考えさせていく。また、体験的に学習することで、自分のやり方に自信を持って意見を言えるような操作活動を仕組んでいく。

練り合いの場で、数学的な考えを深め数理にせまっていくための問いの設定

課題解決学習を進めていく中で、数理にせまるためには焦点をしぼる必要がある。

子どもの言葉で、「簡単にできる」「便利」「はっきり言える」「だれもがわかる」などのやり方に着目させることが大切である。どの子どもの発言から、ねらいにせまる問いを出し焦点化させていくか考えていく。

成果と課題

授業を考える時、ねらいに到達する子どもの姿をしっかり持ち、そのためにはどのような問いや課題がよいか、どのような教材や導入がよいかを逆からも考えていくことで、子どもの姿を中心に考えた授業が組み立てられている。

多様な考えを出させ深め合える算数的活動を大切にしたい。その結果、一つのやり方だけでなく他のやり方も考えながら、それぞれの結果を考察しバージョンアップしていく傾向が見られた。また友達の考えも大切にしながら、自分の考えを深めていくようになってきている。

(4) 基礎学力定着のための実践

チャレンジタイムの充実

児童のアンケートや教師の反省を基に、昨年までの4コースにそれぞれ「わくわくチャレンジ」コースを加えた。子どもたちの意欲と個々の力に応じた選択ができ、計算に対しての意欲や集中力が増してきている。

家庭との連携

4月に子どもたちにどんな力を伸ばしてもらいたいのか保護者向けのアンケートを実施した。また、PTAの研修部とタイアップし、家庭学習を充実させるためにそれぞれの家庭で目標を決め取り組んだ。各家庭の目標や取り組みの様子等については、広報紙を通じて各家庭に知らせた。今後も保護者と連携し、家庭学習の充実を図りたい。

学力等把握のための学校としての取組

- ・評価テスト～各単元・学期ごとの理解度把握（単元学習後、学期末）
観点別評価のデータ比較（3月）
- ・学力診断テスト（CDT）～算数・国語での観点別学力到達度診断（2月）
- ・TT、チャレンジタイムについての児童意識調査（年2回）
- ・子どもの学力に関する教職員意識調査（2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公立小・中学校研究担当者研修会 5月19日（月）大分県教育センター

対象：県内各公立小・中学校研究担当者

目的：校内研究のすすめ方について、本校の事例発表

研究主任・部長合同研修会 8月5日（火）佐賀関小学校

対象：町内各校研究主任、教科部会部長、佐賀関教育研究会事務局

目的：研究内容の還元と“学力向上フロンティアスクール”中間発表

大分県校長研修会 11月6日（金）東国東郡

対象：県内各公立小・中学校校長

目的：校長研修 本校研究の取り組み発表

今後の予定 研究発表会開催（予定）平成16年10月22日（金）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無